

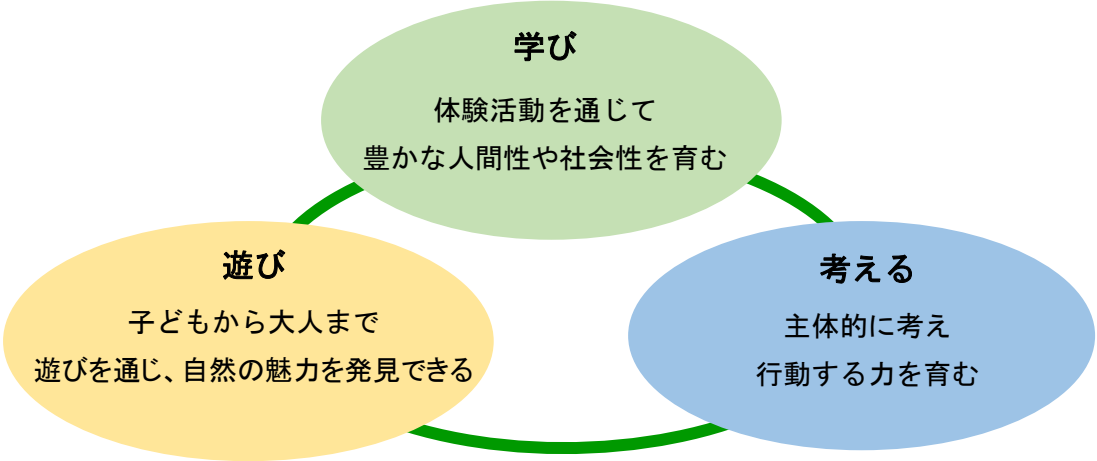
はじめに

金峰山少年自然の家は、整備から 40 年以上市民に親しまれてきましたが、施設の不具合により、平成 31 年（2019 年）4 月から受け入れを中止しており、現在、小中学校の集団宿泊教室は、県内の青少年教育施設で実施されています。

未来を担う全ての青少年の成長に不可欠な自然体験を通して、心身ともに健やかに成長するための活動の場として、また、市民が自然に慣れ親しむ場として活用できる施設の整備を目指し、「新自然の家整備基本計画」を策定します。

基本理念

心豊かでたくましい青少年の教育を支援するとともに
誰もが豊かな自然に親しみながら、**学び、遊び、考える** 自然体験の拠点施設



新施設の整備にあたり、「少年自然の家」という名称から、利用対象者を「少年」に限定している印象やイメージが強いことから基本理念等を踏まえて、誰にでも親しまれる施設を目指して施設の名称変更を検討します。

基本方針

- 方針 1

豊かな自然を活かした自然体験活動の拠点施設として、学校教育活動を支援するとともに、市民や観光客等が気軽に利用できる施設
- 方針 2

地域住民等との連携によるプログラムの提供や地域情報の発信、交流を創出する施設
- 方針 3

民間のノウハウを活用した効率的な運営や新たなサービスを提供する施設

配置計画

■ 宿泊定員：200 名程度
■ 敷地面積：9,500 m²程度
■ 延床面積：2,650 m²程度

展示パネル

自然や森林に関する展示パネルや木製玩具で遊べる遊戯スペース等で、自然や森林に触れて遊びながら、自然を学べる施設

遊戯スペース

宿泊室

集団宿泊活動から家族やグループでの利用等、様々な利用ニーズに対応できる宿泊室

カフェ

自然の中でくつろぎながら、飲食できる空間として、カフェやキッチンカー等、地域の特産品を販売できるスペース

キッチンカー

クライミングウォール

屋内活動に必要な体育館等の整備クライミングウォール等、大人も楽しめる機能

バーベキューサイト

野外炊飯、バーベキュー等、野外の自然に囲まれた中で気軽に調理・食事を楽しめる機能

キッチンカー

野外炊飯場

自然を活かした遊具

周囲の自然を活用した遊具や高低差のある地形を活かしたアスレチック等、自然に触れ合いながら遊べる空間

アスレチック

アスレチック

(配置計画はイメージ図)

キャンプサイトや星空観察のスペース等を設けることで、自然により近い場所で過ごせる空間

【出典】国土交通省資料、新潟県 HP、狹山市 HP、佐賀県 HP、人吉市 HP、熊本県観光協会 HP、さぬき市観光協会 HP、星と森のロマンピア HP（弘前市）、横浜市上郷・森の家、多久市まちづくり交流センターHP

導入機能

導入機能	機能の考え方	設備内容
宿泊機能	・ 小学校の集団宿泊教室の宿泊利用に対応できる機能 ・ 青少年団体や家族や小グループ等の利用に対応できる機能 ・ バリアフリー対応など、安全で安心して利用できる機能	・ 宿泊室（洋室・和室）・バリアフリー室 ・ 食堂・浴室・洗面所・トイレ 等
学習機能	・ 金峰山周辺の自然や歴史、文化、産業等を学べる機能 ・ 創作活動等を行える機能 ・ 青少年活動や野外活動の指導に必要な知識や技術を習得する機能	・ 研修室・体育館・天体観察テラス ・ 森林学習展示スペース ・ 自然学習ゾーン 等
交流機能	・ 利用者同士でコミュニケーションを促し、交流を促進する機能 ・ 地域住民等とのふれあいや地域の産業を体験し、交流を促進する機能	・ 広場 ・ 談話スペース ・ 体育館 等
野外活動機能	・ 施設周辺の自然環境や地域資源を活かしたプログラムを通し、自然とのふれあいや自然学習、自然保護を学べる機能 ・ 屋外における非日常的な体験を味わえる機能	・ 広場・屋外多目的ハウス ・ テントサイト・キャンプファイアー場 ・ 野外炊飯棟・バーベキューサイト 等
レクリエーション機能	・ 屋内における運動やゲームを行うことができる機能 ・ 子どもから大人まで楽しめるレクリエーション活動を行う機能	・ 体育館（遊戯スペース）・アスレチック ・ クライミングウォール 等
情報発信機能	・ 周辺の観光施設や地域の情報を発信する機能	・ 情報発信コーナー ・ 特産品コーナー 等

施設整備方針

管理棟	・利用者を迎えるためのホールを吹抜空間とし、施設全体の見通しを確保し、利用者が分かりやすい空間構成とします。 ・利用者間の交流を促すとともに、憩いの場としても利用が可能な談話コーナーを計画します。
食 堂	・多様な利用者層を想定し、だれもが心地よく食事のできるインテリア計画とします。
研修室	・他のエリアとの境界に遮音壁を設置するとともに、ＩＣＴ設備を検討し、研修に必要な機能的な空間を計画します。
宿泊室	・宿泊室内の通風を確保し、快適で衛生的なインテリア計画とします。 ・車いす対応のトイレ、浴室を計画し、だれもが利用しやすい施設計画とします。
体育館	・想定される体育活動を明確にし、適正な体育スペースを確保します。
外部施設	・小グループやファミリーで宿泊可能なテントサイトの整備を計画します。 ・野外炊飯など屋外で調理できる機能に加えて、バーベキュー等、野外の自然に囲まれた中で気軽に食事を楽しめる機能を整備します。 ・周囲の自然を活用した遊具やアスレチック等、自然に触れ合いながら遊べる空間として整備します。

その他の計画

設備計画	・災害時の避難施設として、自家発電設備の設置を検討します。 ・施設内で利用者が利用可能な Wi-Fi 機能の設置を検討します。 ・施設内に換気システム等の設備の設置を検討します。
長寿命化計画	・スケルトンインフィルの区分を明確にし、将来の改修しやすい計画とします。 ※ 建物のスケルトン（柱、梁、床等の構造躯体）とインフィル（住戸内の内装、設備等）を分離した工法
ユニバーサルデザイン計画	・国土交通省による高齢者、障がい者等の円滑な移動等に配慮した建設設計標準に基づいた、きめ細やかなバリアフリーの計画とします。 ・建物にエレベーターを配置し、だれもが利用しやすい動線計画とします。
防災計画	・建物内には、避難階段を設置し、二方向避難を確保する計画とします。 ・災害時に必要な物品を保管する防災倉庫の設置及び一時避難への対応を検討します。



【出典】国土交通省資料、mio camino AMAKUSA HP
(上天草市)、熊本市 HP

事業手法の検討

本市では、一定規模以上の公共施設整備事業については、ＰＰＰ／ＰＦＩ手法（官民連携手法）の導入に関して優先検討を行うものとしており、本事業に有効と考えられる、ＤＢＯ方式、ＰＦＩ（ＢＴＯ）方式、についてＶＦＭを試算した結果、下表のとおり一定の効果が得られる結果となりました。

今後、施設の運営等に関して民間事業者へのサウンディングを実施するなど、本市の財政状況も勘案しつつ、精査を重ねて事業手法を選定します。

		従来方式	DBO方式	P F I (B T O) 方式
自治体負担の合計		3,137百万円	2,764百万円	2,847百万円
現在価値化後の 公共の財政負担額 (割引率：0.46%)		① 2,987百万円	② 2,632百万円	③ 2,721百万円
V F M	金額 (ア)		①－② 355百万円	①－③ 266百万円
	割合 (ア)／①		11.9%	8.9%

○ 建設費16億円（解体費含む）、維持管理費 年間1億40万円×15年

○ 金額については、再建に向けての実施方針、要求水準により変更となることがあります。

事業スケジュールの検討

■ 従来手法による整備工程の場合（約3年3ヶ月）

[illegible]

■ PFI・DBO方式による整備工程の場合（約3年9ヶ月）

[illegible]